

高田教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌

# 御遠忌通信

ごえんきつうしん

第12号



責任者：森田 成美  
 編集：御遠忌広報実行委員会  
 連絡先：真宗大谷派高田教務所  
 上越市寺町 2-24-4 Tel:025-524-3913

御遠忌  
テーマ

## 私はどこで生きているのか ～たずねよう真宗の教えに～

### 「私はどこで生きているのか」

『正信偈』・『正像末和讃』にたずねる

教化部会長 水嶋 聡

教化部会では、教区御遠忌テーマ「私はどこで生きているのか」たずねよう真宗の教えに」のもと「正信偈のお稽古」及び「教区御遠忌お待ち受け大会」を主な教化活動として行うことにいたしました。

「正信偈のお稽古」では、『正信偈』とともに「弥陀大悲の誓願を」から「如来大悲の恩徳は」までの和讃六首を唱和します。これらは『正像末和讃』に含まれています。

『正像末和讃』は親鸞聖人が八十五歳の時にお書きになられたものですが、その前年の八十四歳のときに、聖人は息子善鸞（ぜんらん）を義絶（ぎせつ）「親子の縁を絶つこと」されています。聖人が離れてから二十余年経つ関東では、異なった念仏の教えや日蓮上人の念仏批判などが広がり、念仏者が動揺していました。それらの問題に因應するため自らの代理として送り出した善鸞でしたが、かえって大きく困惑させてしまいました。それで、善鸞を義絶されたのでした。高齢のため自ら関東に赴くこともできず、自らの思いは伝わらず、聖人の苦悩は深刻なものであったと思われまます。今までの自分の一生が空しく消えていく、絶望感さえ生じていたかもしれません。それは、自らの生きている立場を問うことに他ありません。そのような中で聖人はどうされたのか。

そのころの聖人の様子を年表から伺いますと、善鸞義絶から『正像末和讃』をお書きになるまでの一年足らずの間に聖人は『西方指南抄（さいほうしゅなんしやう）』を二度も書写されています。『西方指南抄』という書物は、親鸞聖人の師である法然上人の法語やお手紙などが記録されたものです。聖人はどうすることもできない苦

悩のただ中で、五十余年前の法然上人のお言葉を依り処とされたのです。そして、その真宗の教えに自らの身を何度も繰り返し返したたずねられたのでしよう。そのことをもって『正像末和讃』をお書きになられたのです。今という末法「お釈迦様の教えに生きる人がいない」時代を生きる苦悩の身に領き、苦悩の身を転じさせる如来のはたらきをいただき、その教えを頭かにしてきた師主を讃える。聖人は身をもって、そのような人間回復の歴史を表してくださったように思います。

教区御遠忌法要並びにお待ち受け大会では『正信偈』を唱和します。『正像末和讃』に流れている真宗の歴史をとともに歩んでまいりましょう。ご参加お待ちしております。



お待ち受け公開講座の様子

# 教区御遠忌までの 教化活動について

教区御遠忌が「私はどこで生きているのか」をあらためて確かめる歩みになることを願っている。そしてそのことが「他者と共に生きる同朋の生活を明らかにする」ことにつながり、「本願念仏に生きる人の誕生」となる。さらには、「真宗の教えにたずねる」プロセスが、お寺は何のために存在するのか、僧侶はどのような任務を担っているのか、私は何を為すために生まれ、生きているのかという根源的な問いに真向かうことにもなる。今後、自問自答を繰り返すことにとどまらず、テーマをめぐる寄り合い談話が生まれ、テーマが自身の生き方を振り返りきつかけとなり、結果として教区挙げての御遠忌ができたという喜びが共有できることを願ってやまない。

〔高田教務所報〕より

御遠忌テーマ「私はどこで生きているのか」たずねよう真宗の教えに」を根本として、『教務所報』に沿いながら、教化活動を推進したい。

さて、教化活動を進めるにあたり、サブテーマ「たずねよう真宗の教えに」とあるが、私たちはたずねるべき真宗の教えを身に保っているのかと問わざるをえない現況である。真宗の教えが何時でも何処でもたずねることが出来るような身になっているとは言い難い。つまり生活全体が真宗の教えを依りどころとするような念仏の生活になっていないと言えよう。

真宗の生活は、蓮如上人以降、朝夕に『正信偈』をお勤めしてきた歴史がある。それは『正信偈』の理解如何にかかわらず、『正信偈』自体が本願念仏の歩みそのものだからであろう。ならば少なくとも真宗の生活には、『正信偈』をお勤めすることが大事である。『正信偈』を誦すること、つまり身に保つことが念仏の生活になっていくと思う。よってこのたびの御遠忌は『正信偈』を誦することを教化活動としたい。

そして、その本願念仏の教えをもとにテーマが話し合える機会を「教区御遠忌お待ち受け大会」として実施したい。当初の計画は、御遠忌に向けて「教区同朋大会」を実施することとなっていたが、この同朋大会を「教区御遠忌お待ち受け大会」に変更し、御遠忌を前面に表記することにより、御遠忌の周知とともにお待ち受け体制の促進を図る。特にこの大会は、講義を聴聞するだけに留まらず、寄り合い談話が生まれ、いく場になるようにしたいと考える。

以上「正信偈のお稽古」、「教区御遠忌お待ち受け大会」を教区御遠忌までの教化活動の主幹として実施していききたい。

## 1 正信偈のお稽古(『正信偈』誦)

『正信偈』誦により念仏の生活を回復する。この教区御遠忌を機縁に誰もが『正信偈』をお勤めできることを願いとす。また宗祖親鸞聖人や教区御遠忌テーマが話され伝わる場としていききたい。

### 【開催要項】

- ①実施単位 各組
  - ②回数 各組の事情に応じて決定する。他の研修会と併催も可能
  - ③内容 正信偈 草四句目下  
念仏讃 淘三  
和讃 弥陀大悲の誓願を  
次第六首
  - ④対象 僧侶・門徒及び有縁の方々
  - ⑤講師 教区内准堂衆(補)【各組にて依頼】
- 意向 願以此功德  
讃歌 真宗宗歌、恩徳讃  
拝読文 三帰依文  
法話 教区御遠忌テーマ、親鸞聖人に関する法話等





「正信偈のお稽古」2015年度実施・計画状況

2015.12.22 現在

組	上半期(2015.7~12)	下半期(2016.1~6)
第1組	4回	4回
第2組	2回	4回
第3組	未実施	実施予定
第4組	2回	4回
第5組	4回	3回
第6組	未実施	3回
第7組	2回	実施予定
第8組	1回	3回
第11組	未実施	実施予定
第12組	3回	5回
第13組	1回	実施予定

2 教区御遠忌お待ち受け大会

教区御遠忌に向けて機運を高めるべく、御遠忌までに各ブロックで実行委員会を組織し、その中に教化部会も加わり、計画・実施をする。教区御遠忌テーマ「私はどこで生きているのか」たずねよう真宗の教えに」を根本とし、自身の抛りどころを宗祖のお心に寄り添いながら求め、確かめていく「場」としたい。また、各ブロックが主体的に実施することにより、教区あげての御遠忌法要厳修を実現し、真宗門徒の誕生を願う大会にしていきたい。

【開催要項】

- ①日程 2016年秋(2016年度)  
2017年春(2016年度)  
2017年秋(2017年度)



②会場

4会場5ブロック制  
高田別院 [第4・5・8組]  
[第6組]

新井別院 [第7組]

西部地区 [第1・2・3組]

東部地区 [第11・12・13組]

各ブロックにて決定

限定しない

各ブロックにおいて決定

2016年秋は教区内、2017年

春及び秋は教区内外に限らず同一講師。

③内容  
④対象  
⑤講師

特別懇志金ご進納のお願い

教区御遠忌記念事業として、高田別院大門及び新井別院本堂屋根の御修復を行います。すでに各御寺院においては、御遠忌懇志金御依頼についてご尽力いただいている最中ではありますが、このたび、各ご寺院・ご門徒への懇志御依頼とは別に設けられております特別懇志金について、改めてお願い申し上げることでございます。

御遠忌円成並びに両別院御修復に向けて格別なるご懇志を賜りたく、下記のとおりお願い申し上げます。

10万円（なお、1万円未満の懇志も広く受付させていただきます。）

納入先：高田教務所

## 部会・委員会等進捗状況

## 【教化部会】

- 第3回 期日 2015年9月29日  
 第4回 期日 2015年12月15日  
 「正信偈のお稽古」・「教区御遠忌お待ち受け大会」について協議。

## 【財務部会】

- 第7回 期日 2015年10月20日  
 特別懇志について協議。

## 【参拝部会】

- 第4回 期日 2015年10月20日  
 団体参拝の計画について協議。

## 【行事広報部会】

- 第14回 期日 2015年11月19日  
 業務の進捗状況を確認。

## 【儀式法要部会】

- 第12回 期日 2015年11月30日  
 音楽法要の次第、法要日程について協議。

## 【御修復委員会】

- 第4回 期日 2015年12月3日  
 施工業者から御修復の進捗状況について説明を受けた。

## 【広報実行委員会】

- 第21回 期日 2015年11月10日  
 第22回 期日 2015年12月24日  
 御遠忌通信第12号の内容を編集。



## \*\*完納御礼\*\*

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌懇志金をご進納いただき誠にありがとうございます。ここに、ご完納いただきました寺院名をご披露し、お礼にかえさせていただきます。

- 第1組 西性寺 光照寺  
 第3組 禮信寺 光榮寺  
 第4組 常見寺  
 第6組 西安寺 明善寺 願清寺  
 第7組 圓了寺 淨善寺 正念寺 本龍寺  
 第8組 正福寺 本覺寺  
 第11組 本教寺 能念寺 光圓寺  
 第12組 法西寺 敬徳寺  
 第13組 榮恩寺

(2015年9月1日～12月31日)

なお、右記を含め2015年12月31日現在の完納寺院は168カ寺でございます。またそれ以外にも84カ寺から懇志金をご進納いただいております。収納総額は1億7374万4100円(御依頼額の68.2%)です。

## ひと休み

昨年は身内で葬儀がありました。享年九十五歳でした。私にとって人の死に向かい合うのは久しぶりで、さらにお寺での葬儀を初めて経験しました。この葬儀で感じたのは、本当にたくさんのご門徒さんやお寺さん方に見送ってもらい、自坊をたくさんの人たちに支えてもらっていることでした。普段の生活ではこれだけの気持ちを感じることはできません。人の死は、大変悲しいものですが、有り難い気持ちと感謝の気持ちでいっぱいでした。

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が少しずつ近づいていますが、自坊でも御遠忌の話が総代さんたちの中からでてきました。そのため御遠忌法要に向けて準備を行いつつあります。日程や記念事業・御修復などなにかと忙しくなりつつありますが、ご門徒さんのお力添えを戴いているところです。

(竹田知里)